

# 千葉市をフィールドに実証実験に取り組んでいます！

## 電動サイクルシェアサービス実証実験

### 公共交通を補完する新たな交通サービスの検証を実施

千葉市では、公共交通を補完する新たな交通サービスとして、電動サイクル（特定小型原動機付自転車）の有効性および課題などを検証するため、2024年1月30日から実証実験を実施しています。

#### ○事業概要

実施期間 2024年1月30日～2025年3月末（予定）

場 所 幕張新都心を中心に順次拡大

対 象 16歳以上の方

利用方法 【下記2次元コード】からアプリをダウンロードの上、ご利用ください  
（最初のご利用前に、同アプリにて交通安全テストの受験が必要です）

利用料金 15分ごと200円、12時間最大4,000円



電動サイクルシェアサービス実証実験



アプリの  
ダウンロードは  
こちらから

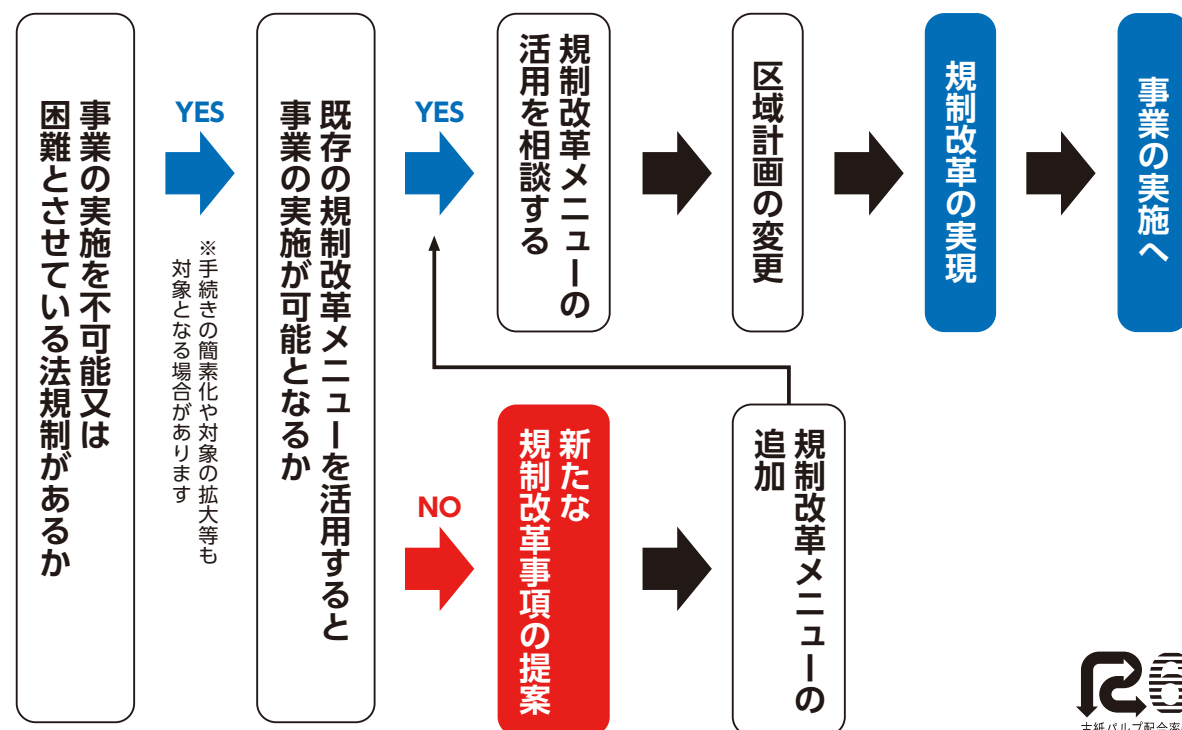


## 規制改革アイデアを募集しています！

### 新しいビジネスに挑戦しませんか？

国家戦略特区では、「世界で一番ビジネスのしやすい環境」を創出するため、幅広い分野の規制改革メニューが用意されています。また、既存の規制改革メニューの活用以外にも、新たな規制改革の提案を行うこともできます。

民間企業等の皆様がビジネスの中で支障となっている規制やお気づきのことがありましたら、ぜひアイデアをお寄せください！！



古紙パルプ配合率60%再生紙を使用

第6号  
2024.05

# CHIBA

## 特区 NEWS

千葉市 総合政策局 未来都市戦略部  
国家戦略特区推進課  
☎ 043-245-5346  
✉ tokku.POF@city.chiba.lg.jp

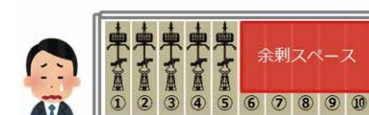


## 大規模小売店舗の駐輪場を シェアサイクルポートに置換可能に!!

国家戦略特区制度の活用により、規制改革が実現できます ※詳しくは裏表紙をご覧ください。

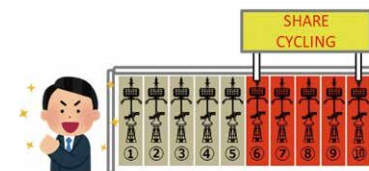


イオンスタイル千葉みなと



シェアサイクルポートを導入したいが、手続きが膨大なので設置はあきらめよう

《規制緩和後》



簡単にシェアサイクルポートを設置できた！シェアサイクルを使うお客さんをいっぱい呼び込もう！

### 千葉市からの提案により規制緩和を実現しました

千葉市をはじめとし全国で普及が進んでいるシェアサイクルですが、スーパーなどの大規模小売店舗で設置要望が多い一方、「駐輪場以外に余剰スペースが取れない」「駐輪場の一部をシェアサイクルポートに置き換えようとすると手続きの負担が大きい」という課題がありました。

こうした課題を解消するため、2023年12月1日に、「大規模小売店舗における駐輪場の一部をシェアサイクルポートに置き換える場合、シェアサイクルポートを駐輪場と同等のものとみなし、直ちに設置可能とする」国家戦略特区制度の規制緩和提案を行いました。

千葉市からの提案を受け、経済産業省は「シェアサイクルポートは（略）大規模小売店舗の周辺の地域の住民の利便及び商業その他の業務の利便の確保に資するものであれば、駐輪場の収容台数に含めても差し支えない」との通知を発出し、駐輪場内のシェアサイクルポート即時設置が可能となりました。

### 市内店舗でさっそくシェアサイクルポートへ置き換えました

千葉市からの提案を契機にシェアサイクルポート即時設置が可能となったことを受け、市内2店舗の駐輪場にHELLOCYCLINGのシェアサイクルポートを設置しました！

- イオンスタイル千葉みなと（千葉市中央区問屋町 2-29）台数：12台
- フレスポ稲毛（千葉市稲毛区長沼原町 731-17）台数：8台

#### 店舗からのコメント

お客様の利便性を高めるシェアサイクルはかねてから所望していましたが、大店立地法に基づく変更の届け出となると、通常業務を行いながら対応することは難しく実施できる見込みがありませんでした。今回、作業が大幅に少なく実現できたのは助かりました。

#### シェアサイクル事業者からのコメント

これまで余剰スペースの確保が障壁となり設置を断念していた例もありましたが、そういった店舗へ再交渉できるようになりました。今回の規制緩和は全国が対象であり、益々事業拡大することができるのを嬉しく思います。



市内のドローン活用を支援します！ードローン活用推進ー

ドローンを活用し、業務の生産性・安全性向上を目指す市内企業やドローンの有用性が体感できるイベント等を行う企業のほか、操縦ライセンス取得によりドローン活用業務の内製化を図る市内企業に対して財政支援を行っています。2023年度は高圧送電設備の点検や「ドローンサッカー」イベントを行ったほか、市内企業2社が操縦ライセンスを取得しました。

引き続き、市内ドローン産業の集積・振興とドローンの社会受容性向上を促進します。

ドローンサッカーエキシビションマッチ  
(主催 (一社) 日本ドローンサッカー協会)▶



補助金制度 (2023年度実績)

	ドローン活用推進事業 (民間支援型)		無人航空機操縦者技能証明取得支援事業
補助対象	A類型	市内企業の業務効率化や省力化等に資する事業	操縦者の確保によりドローンを活用した業務の内製化等を目指す市内企業
	B類型	市民や来訪者向けにサービスを提供する事業	
補助対象経費	外注費、実施経費等		ライセンス取得に係る講習・受験費用
補助率 (上限)	補助対象経費の 2 / 3 (上限 700,000円)		補助対象経費の 2 / 3 (上限 260,000円)

ドローン操縦ライセンス取得者への特別インタビュー！

2023 年度無人航空機操縦者技能証明取得支援事業では、以下の 2 社が採択され、二等ライセンスに挑戦し、見事合格されました！インタビューをご覧ください。

Q 二等無人航空機操縦士技能証明を取得されたきっかけや理由を教えてください。

A 千葉共同サイロ(株) 鈴木様

弊社が保有する高さ約40～50mの建物とコンクリートサイロ及び荷役機械（アンローダ）の点検では、主に作業員による目視によりひび割れや腐食など異常の有無を確認します。点検箇所が高所であることや通路が一部無いなど安全性の問題があり、また目視では確認の困難な範囲もあるため、ドローンを活用した点検により、安全性と点検精度を確保するためライセンスを取得しました。



千葉共同サイロ(株)

A 千葉都市モノレール(株) 吉満様

弊社軌道施設の点検は、従来から人による目視点検を実施していますが、2023 年度に千葉市ドローン活用推進事業を活用し、ドローン点検の効果を検証しました。検証結果から点検業務の省力化が図られ、多角的な情報を蓄積できることなどから、社内にてドローンパイロットを配置するためライセンスを取得しました。



千葉都市モノレール(株)

Q 試験で難しかったことや対策されたことがあれば教えてください。

A 千葉共同サイロ(株) 鈴木様

ドローンを飛行させるにあたって難しかったのは、ドローンと自分との距離感を把握することです。私の場合は、上長が社内の空きスペース（屋内）に練習場を設けてくれたおかげで、距離感を把握できるまで訓練できたのが幸いでした。

A 千葉都市モノレール(株) 吉満様

修了審査までの時間が空いてしまい自分で練習する術が無かったので、自らトイドローンを購入し、休日に自宅で基本動作の練習をしていました。実際の審査会場では、ほぼミス無く試験に臨めたと思います。学科試験は動画サイトを活用して国家試験本番に向けたシミュレーションを行いました。

Q 御社のような課題や悩みを抱える企業は数多くいらっしゃると思います。何かアドバイスやメッセージがありましたらお願いします。

A 千葉共同サイロ(株) 鈴木様

実際にドローンを飛行させる場合に、航空局に飛行許可を申請する手間とかかる時間はとても少なく、ドローン情報基盤システム（DIPS2.0）にて定められた通り入力していけば良いだけです。ドローンは法令を把握した上で、気象条件、周囲の環境などを考慮すれば、思っていたよりも手軽な点検ツールであると感じています。活用してみたいかがでしょうか。

A 千葉都市モノレール(株) 吉満様

一からドローンを始めようとなると、ドローン購入や国家資格取得等で数百万円の費用が必要となり、その後も運用要領の策定や実証実験等、一時的な業務量は増えてしまうと思います。しかしながら、働き方改革や技術の伝承等、企業として避けられない課題を解決するための方策としては有効ではないかと思っています。

前人未踏の飽くなき挑戦ードローン宅配構想ー

東京湾臨海部の物流倉庫から幕張新都心高層マンションまでをドローンで結ぶ「ドローン宅配構想」の実現に向け、実証実験に取り組んでいます。2023年12月には構想上のルートで最後の課題であったマンション個宅までのラストワンマイル配送に挑戦し、ドローンポートを介したドローン及び地上配送ロボット連携による医薬品の配送に成功しました。

今後はビジネスモデルの構築に向けて荷主や物流事業者を交えた配送オペレーションの検証等を進め、国内で前人未踏の都市部ドローン宅配サービスの実現を目指します！

ドローンポートを活用した配送▶



ドローン事業者に会いに行こう！ードローン産業セミナーー

幕張メッセで開催されるドローン見本市「Japan Drone/次世代エアモビリティ EXPO」と同時開催で、民間事業者・自治体向けにドローン産業セミナーを実施しております。国内ドローン研究の第一人者である野波健蔵氏の基調講演のほか、民間事業者からのドローン活用事例の紹介やドローン事業者とのマッチング相談会を行い、例年定員を上回る参加申込を頂いております。



デジタルツインによる自動運転の安全性検証を行っています

幕張新都心における自動運転バスをはじめとする近未来モビリティサービスの実装に向けて、自動運転バス等の実証環境をデジタルツイン上で構築し、安全性等を検証する取組みを開始しています。

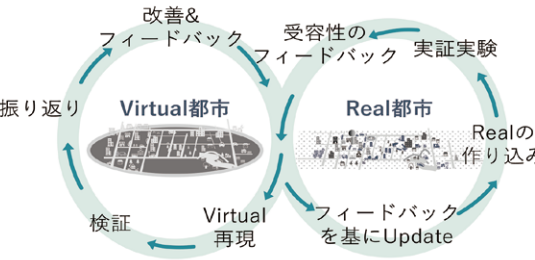
デジタルツインとは、現実の世界から収集した様々なデータを、まるで双子であるかのようにデジタル上で再現する技術のことです。これにより、天候や周辺車両、歩行者、工事などの一時的な道路状況の変化など、様々な環境でのシミュレーションを数多く実施することができます。

《デジタルツイン構築イメージ》

テストコース再現



《バーチャルと現実での相互実証》



逆光シーンの再現

